

2026年度 須磨学園夙川中学校入学試験

国 語

第 2 回

(注 意)

解答用紙は、この問題冊子の中央にはさんであります。まず、解答用紙を取り出して、受験番号シールを貼り、受験番号と名前を記入しなさい。

1. すべての問題を解答しなさい。
 2. 解答はすべて解答用紙に記入しなさい。
 3. 字数制限のある問題については、記号、句読点も1字と数えること。
 4. 試験終了後、解答用紙のみ提出し、問題冊子は持ち帰りなさい。
- ※ 設問の都合上、本文を一部変更している場合があります。

□ 次の文章は、ジェニファー・ウォレス『ほほどほ』に
きない子どもたち』の一部です。これを読んで、後の設問に
答えなさい。

この本の調査をはじめの前、競争は子どもにとって害悪だと私
は考えていた。数年前、息子のジェイムズがコーチからバスケッ
トボールの「猛特訓」クラスに誘われた。コーチは完全なるゼン
イで声をかけてくれたのだが、その「肉体面でも精神面でも試さ
れる」クラスの謳い文句が目をはひいた。「仲間Aに打ち勝つため
に自らを追いこむことを恐れない君にとつて、これはうつつけの
プログラムだ」。思わず二度見した。「仲間Aに打ち勝つ？」すぐさ
まげんなりした。高校と大学を通じて、競争が友人同士の仲を裂
くのを見てきたのだから。

10 インタビューで私が競争についての話題を持ち出すと、すぐさ
ま親も譲れない一線を示した。私に同意して過熱する競争のスト
レスから子どもを守りたいと語る親もいれば、社会がどんどん脆
弱じやくになっていくせいで、現代の子どもは「甘やかされてたくまし
さに欠けている」と反対のケンチけんちに立つ親もいた。

15 ^{注1} テイラー先生は新しい考え方を授けてくれた。もともと競争は
悪いものではないと先生は語った。競争が悪いのではなく、私た
ちの競争Cに対する見方が不健全であることが多いのだ、と。つい

他者と自分を比較して、自分が劣っているように感じる——そ
して嫉妬が湧きあがる——と、自分と相手との差を縮めて不快
な感情を消し去ろうと脳がシレイしレイを送る。差を縮めるにはふたつ
の方法がある。ひとつは嫉妬を原動力にして相手の位置まで自分
が上昇する。これは「良性の嫉妬」と言われている。もうひとつ
は嫉妬に駆られてライバルとみなした相手を引きずり落とそうと
する。つまり「悪性の嫉妬」である。競争が有益なものになるか

25 有害なものになるかは、嫉妬をどう扱うかにかかっている。テイ
ラー先生のように、私たちは子どもが悪性の嫉妬ではなく良性の
嫉妬を選択する力添えをしなければならない。

悪性の嫉妬はライバルとはゼロサム——相手が勝つと自分が
負ける——の関係にあるという考えに基づいている。良性の嫉
妬はライバルとは互いに有益な関係にあるという考えに基づいて
いる。自分と相手の可能性を存分に発揮するためには、自分には
相手が必要であり、相手にも自分が必要であると認識している。

その結果、良性の嫉妬は大切であることを損なうのではなく強化
する。競争をこのように捉え直すと——獲得もしくは達成した
35 いものではなく、なりたいたい自分に焦点を当てると——結びつき
の力が強くなる。

この事実はデータからも証明されている。イタリアで実施した
調査において、一〇〇〇人を超える思春期の子どもに競争の動機

について尋ねたところ、「まわりの人たちは争っているつもりが
なくても、自分は競争心を抱いている」などのゼロサムの考えを
持つ子どもは、交友関係に悩んでいる割合が高かった。また、カ
ナダで六一五人の思春期の子どもを対象としてタマラ・ハンフ
リーとトレイシー・ヴァイランコートが実施した調査によると、
高校に入った頃に激しい競争心を抱いていた生徒は、最終学年で
45 より直接的・間接的な攻撃性を示した。そして攻撃的になればな
るほど、歳月とともに孤独が強まること^{さいげつ}があきらかになった。ほ
かの調査からも、競争心が激しい人間は、鬱、不安、ストレス、
自傷に苦しむ割合が多いことが判明している。永遠に勝ち続ける
ことは不可能なのだから、つねに勝利しようとするれば人生の苦惱
50 が増えるとヴァイランコートは語る。反対に同じ調査において、
仲間を「勝利を阻むライバル」ではなく、自分の能力を伸ばす
「助けになってくれる」と考えていた生徒は健全な人間関係を築
いていた。こうした、いわゆる「適応型競争スタイル」は、自尊
心の高さと結びついている。このスタイルを身につけた子どもは
55 概して他者の幸福にも配慮する。

では、子どもが競争を否定的にではなく建設的に捉え直すため
に、私たちはどのような手助けをすればよいのだろうか。子ども
はもっと大きな世界の一部であり、弱肉強食の社会にひとり
立っている存在ではないと伝えるために、私たちはどうしたらよ
60 いのだろうか。「ほかのみんなのおかげでよりよい自分になれる」
といった呑気な掛け声は答えにならない。そんな中身のない文言
は過酷な社会ではなんの役にも立たない。嫉妬をはつきりと言葉
にして、同時に競争に対する子どものマインドセットを変える手
助けをしなければならない。あまりにも頻繁に私たちは競争心を
65 あおってしまう。誰それはこの大学を志望しているの？ 誰そ
れは今日の試合でどうだったの？ といった具合に。これから子
どもに質問するときには、仲間との結びつきを強化するように心
がけて、ライバルの長所を探すように教えよう。ライバルの強み
はなにか。なにが得意なのか。

注1 テイラー先生：アーチャー校でジャーナリズムの授業を
担当している教員。生徒を効果的に支援することに長けている。

注2 マインドセット：物事に対する考え方のくせ。

一の設問

問一 ——線部A「仲間に打ち勝つ？」に対する筆者の考えの説明として最も適当なものを、次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1 競争には問題もあるが、肉体面や精神面で成長させる有益な一面もある。
- 2 競争は、心身を追い込む猛特訓で、ライバルに差をつけることができる。
- 3 競争はストレスを生むだけなので、子どもにとって害悪だと考えている。
- 4 競争には、筆者自身、あまりいい思い出がなく、消極的に考えている。
- 5 競争は友人関係を悪化させるため、子どもにとって有害だと考えている。

問二 ——線部B「親も譲れない一線を示した」とありますが、それはどういうことですか。その説明として最も適当なものを、次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1 競争はうんざりだと思ふ筆者に対して、ある親が競争は子どもをたくましく成長させると反対したということ。
- 2 筆者が否定的に考える競争の話題を持ち出すと、すぐに親も競争は子どもにストレスだと共感したということ。
- 3 競争から子どもを守る考えも、競争が子どもをたくましくする考えも、子どもが大事な点で同じだということ。
- 4 多数の親は、筆者に同意して競争に反対の立場だったが、少数の親は、競争に賛成の立場に立ったということ。
- 5 筆者が競争に対して消極的な印象を話すと、親も肯定と否定のそれぞれの立場から持論を展開したということ。

問三 ——線部C「競争に対する見方が不健全である」とありますが、「不健全」だと判断されるのは、どのような点ですか。その説明として最も適当なものを、次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1 競争するライバルとの関係は、勝つか負けるかしかないという考えに基づき、ライバルとみなす相手を自分と同じ次元にまで引きずり落とそうとする点。
- 2 競争は、他者と自分を比較して、自分が劣っているように感じさせ、そこから生じる不快な感情を消し去ろうと嫉妬という感情を生んでしまうという点。
- 3 競争は、努力すれば誰もが自分を上昇させることができるという考えを基本として、人間が生まれつき持っている才能や能力の違いを考慮していない点。
- 4 競争は、相手との差を縮めるために、自分を向上させるという良い点もあるのに、かたくなに相手に対する嫉妬を害悪であるとしか考えようとしない点。
- 5 競争は、相手と自分を比較して劣っていると感じた自分が上昇し、結果的に最大限の可能性を発揮するために、目標とみなせるライバルを必要とする点。

問四 ——線部D「良性の嫉妬は大切であることを損なうのではなく強化する」とありますが、それはなぜですか。その説明として最も適当なものを、次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1 相手との差から生まれる不快な感情を消し去ろうと、相手の位置まで自分を上昇させることは、切磋琢磨を通して、相手との絆がより深まるから。
- 2 自分の可能性を最大限発揮して、相手の位置まで向上することは、相手の存在が必要だとみなすような、ライバルとの有益な関係をもたらすから。
- 3 良性の嫉妬は、自分には相手が必要である一方で、相手にも自分が必要であると考えられる関係に基づいて、相手に深く干渉することだと言えるから。
- 4 相手の位置まで上昇して、相手に勝とうとすることは、ライバルと自分が互いに自身を大きく成長させることに意識を向ける、有益な関係を築くから。
- 5 嫉妬を原動力として自分を成長させようと努力することは、相手との有益な関係を通して、なりたい自分に近づこうとする願望に他ならないから。

設問は、裏面に続きます。

問五 —— 線部E「競争をこのように捉え直す」とありますが、本文全体を踏まえて、同じ意味の表現を二〇字以内で抜き出して答えなさい。

問六 —— 線部F「なりたくない自分に焦点を当てる」ことを通して、子どもはどのようなになると本文では述べられていますか。その説明として最も適当なものを、次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1 競争の結果よりも、その過程を重視するなかで得られたものや達成できたことに対して、意義を見いだすようになる。
- 2 競争をして他者に打ち勝つのではなく、自分自身に勝ち続けることを意識することで、心に平穏が訪れるようになる。
- 3 他者を攻撃したり引きずり落とそうとするため孤独だった状況から、次第に共感した仲間が周りに集まるようになる。
- 4 他者とは、成長する自分を助けてくれる存在だと考え、健全な人間関係のなか、自分も他者も大切にしようになる。
- 5 なりたい将来像を意識することが高い自尊心と結びつくことで、自分の幸せよりも他者の幸福に配慮するようになる。

問七 —— 線部G「私たちはどのような手助けをすればよいのだろうか」とありますが、具体的に筆者はどのようにすればよいと述べていますか。五〇字以内で説明しなさい。

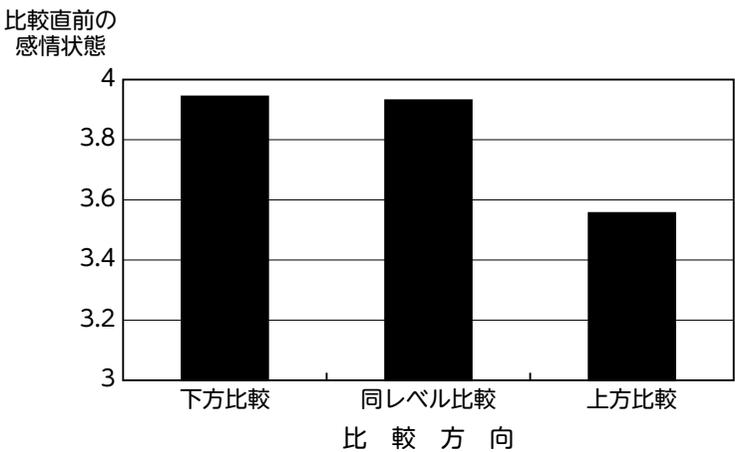
下書き用（※これは解答用紙ではありません）

50	40	20	

問八 〰〰〰〰線部のa〰cのカタカナに相当する漢字を楷書で書きなさい。

- a ゼンイ b ケンチ c シレイ

問九 Sさんは、—— 線部「私たちは子どもが悪性の嫉妬ではなく良性の嫉妬を選択する力添えをしなければならぬ」と筆者が主張する根拠について理解を深めようとしていました。インターネットを調べたところ、次のグラフを見つけました。グラフの縦軸は、点数が高いほど前向きな気持ちであることを示し、横軸は、比べる相手が、劣っているか、同程度か、優れているかを表します。このグラフに基づく—— 線部の根拠についての説明として最も適当なものを、後の中から一つ選び、番号で答えなさい。



（潮村公弘・小市朋子の研究による）

- 1 人間は多くの場合、劣っている相手と自分とを比較するものだから。
- 2 親は、子どもが優れた相手の位置に上昇することを望んでいるから。
- 3 劣っている相手と自分を比べることが、最も気分が良いものだから。
- 4 優れた相手と自分とを比較するような人間はあまり存在しないから。
- 5 優れている相手と自分を比較すると、気持ちが後ろ向きになるから。

二

次の文章は、林けんじろう『ブルーラインから、はるか』の一節です。小学六年生の藤森庫太郎（「コタ」）は、夏休みに四年生の榊原風馬（「風馬」）から、しまなみ海道を自転車^{まが}で往復する自由研究に誘^{まよ}われました。二人で見事片道を走破した後、風馬の父親が迎^{むか}えに来てくれました。以下はそれに続く場面です。これを読んで、後の設問に答えなさい。

「しかし、どうして自転車なんかで……」

お父さんが、みはると同じようなことを言った。

「まったく、むちゃをして。コタクにも大変な迷惑^{めいわく}をかけてしまったね」

5 めいわく？

「ほんとうにもうしわけ——」

「迷惑なんか、かかっとらん！」

居間^{いっしめん}が、一瞬で静まりかえった。

しまった。つい大声を出してしまった。自分でもおどろいた。

10 だって、言いたくもなるよ。風馬は……ひとりじゃ不安だったから、おれみたいにザツな人間でも利用するしかなかったんだろ。ほかに頼^{たよ}る人がいなくて。やっとたどりついたのに、悪いこと^Aとした、みたいになじるなんて、そりやないだろ。

……ううん、おれのほうこそ、だよな。きのうからずっと、あいつのことボロカス言ってたもんな。これじゃおれも、父ちゃん^{注2}母ちゃんと、なんも変わらん。

真の目的を知らされず、ふゆかいなときもあった。けど、さい^Bしよから知らされてたって、結果は同じだ。おれはみずからあいつの計画にのっかった。つごうよく、おれもあいつを利用した。

20 大きらいな月曜日^にから逃げ出したくて。

あいつはちがう。逃げたんじゃやない。挑^{いど}んだんだ。

だから、たしかなことは伝えなきゃ。

おれにとって風馬は、迷惑^Cになっていない。

なったとしたらそれはきつと、ちがう何かだ。

25 「……コタクん。風馬は、どうだったの？」

お父さんが、おれのことをじつと見つめて、たずねる。

注3 尾道^{おののち}から、ここまでの道のり、どうだった？」

「風馬は……」

たしかなことを、伝えるんだ。

30 D 「風馬は、がんばったよ」

「がんばれたの？ 風馬は」

がんばれたにきまつてるじゃやないか。だからここまで来れたんだ。

小さな体で、いっしょうけんめいペダルをこいで。

あなたに買ってもらったクロスバイク^{注4}で。

35 「ほうよ。がんばったんよ」

風馬。おれ、わかったよ。おまえ、それがしたかったんだな。しまなみ海道サイクリングを思い立った理由。真の真の、ほんとのほんとの目的。

40 風馬は、家族に、走りぬいた自分を見てもらいたかったんだ。「めちゃめちゃがんばった。がんばったどころじゃなくらいが**んばった**」

くそ、うまく言えない。頭じゃわかっているのに、ことばが出てこない。

E 「走りまくったし、坂ものぼったし、雨にも耐えたし」

45 たたかったし、負けなかったし、つらぬいたし。

まちがえそうな道も、まっすぐ走った。箕浦^{注5}に、盗^{ぬす}んだものを返して、あやまった。

F 「風馬は、かっこよかった」

あいつは、へなちよこなんかじゃなかった。

50 説^{せつ}得^{とく}力^{りき}ないかな。あいついま、ぶったおれてるもんな。

みはるから反論^bされそうだな。

けど、自分の弱さを知ったうえで何かに立ち向かうって、すごい**んばった**？ おれには一ミリもない強さだ。

「そう……かっこよかったの」

55 「うん」

お父さんは、そう、そう、とつぶやいた。瞳^Gがきらきら光って見える。

注1 みはる…：風馬の姉。

注2 父ちゃん母ちゃん…：コタの両親。

注3 尾道…：広島県尾道市。しまなみ海道の出発点。

注4 クロスバイク…：自転車の種類。

注5 箕浦に、盗んだものを返して…：箕浦は風馬の転校前の元同級生。昔盗んだゲームソフトを返しに行った。

問五 —— 線部 D 「風馬は、がんばったよ」に込められたコタの思いの説明として最も適当なものを、次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1 風馬が迷惑をかけていないかどうか気がかりな風馬の父親に、風馬は自分のことは自分でできたと伝えたいという思い。
- 2 苦手な月曜日から逃げず、しまなみ海道サイクリングに挑戦できたことを迷惑に思っていないと知ってほしいという思い。
- 3 尾道からの道のりで、コタに迷惑がかからないように風馬が頑張った事実を、風馬の父親にはわかしてほしいという思い。
- 4 あえて省略の多い言葉で風馬の頑張りを伝え、風馬の父親に、その行間にある意味合いを想像してもらいたいという思い。
- 5 しまなみ海道のサイクリングに挑戦して、諦めずに走破できた風馬の確かな頑張りを、風馬の父親に伝えたいという思い。

問六 —— 線部 E 「走りまくったし、坂ものぼったし、雨にも耐えたし」とありますが、コタはなぜそのような言い方をしたのですか。その説明として最も適当なものを、次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1 風馬の父親が知らないこの場所に至るまでの辛さを、風馬の父親に知ってほしいと思ったから。
- 2 風馬の父親が何も言わない以上、まだまだ自分が発言しなければならぬように感じたから。
- 3 風馬が家族にしまなみ海道を走り抜いた姿を見せようとしたことを風馬の父親に伝えるため。
- 4 その場で、とりあえず思いついたことを言わないと、明るい雰囲気が悪くなると思ったから。
- 5 抽象的な頑張りが具合よりも、頑張ったことを具体的に挙げた方が意図が伝わると思ったから。

問七 —— 線部 F 「風馬は、かっこよかった」とありますが、コタは風馬のどのような点が「かっこよかった」と思っているかと解釈できますか。その説明として最も適当なものを、次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1 しまなみ海道を走破しようとした本当の目的を誰にも話すことなく、一人で黙々と頑張りが続けた結果、その目的を達成した点。
- 2 目的を実現するために狡猾に頑張ることができただけでなく、自分に間違ったことがあれば方向転換できる柔軟さを持っている点。
- 3 大変なことに挑戦してやり遂げる根性に加え、自分の考えを貫く信念や、悪いことをしたら謝罪できる勇気も兼ね備えている点。
- 4 良いと思えることは周りの雰囲気になら流されることなく、最初に立てた計画や目的を軌道修正しながら、突き進むことができる点。
- 5 コタが大したことがないと思っていた風馬の印象を、風馬が誰にも頼らない自身の頑張りによって、その印象を覆している点。

問八 —— 線部 G 「瞳がきらきら光って見える」とありますが、本文全体を通して、風馬の父親の心情は、どのように変化したと解釈できますか。その説明として最も適当なものを、次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1 はじめは、体力のない幼い風馬が無茶をしたことに怒っていたが、後には、風馬は無事だとわかり、落ち着きを取り戻した。
- 2 はじめは、事態が理解できずにただただ混乱していたが、コタから状況を説明されて安心し、泣きたい気持ちになっっている。
- 3 コタに対して何度も風馬に関わる質問をすることによって、自分が思っていた通りの息子だったと確認でき、満足している。
- 4 最初は、迷惑をかけたコタに申し訳なく思っていたが、後にコタから風馬の頑張りやかっこよさを聞かされ、嬉しくなった。
- 5 最初は、親に心配をかける困った息子だと思っていたが、素晴らしい友人ができたこと知り、自慢の息子だと思いはじめている。

設問は、次の用紙に続きます。

問九 本文の内容・構成・表現の説明として、適当なものは○、
適当でないものは×と、それぞれ記号で答えなさい。

- 1 本文の物語は、コタの視点で描かれている。
- 2 1行目「…」と6行目「――」は、同じ表現効果を持つ記号として用いられている。
- 3 5行目「めいわく？」のように、コタの発言はカギカッコが使われるが、その内面はカギカッコを使わずに描かれている。
- 4 7行目『迷惑なんか、かかっとらん！』や、11行目「おれ」から、コタは反抗的な少年だと推測できる。
- 5 14行目「おれのほうこそ」の後には「悪いことした」といった内容を補うことができる。
- 6 本文では、風馬の父親の呼び方は、「お父さん」とだけ表現されている。
- 7 風馬は、客観的に評価される場合は「あいつ」、コタが直接語りかける時には「おまえ」と使い分けられている。

↓ここにシールを貼ってください↓

受 験 番 号

名 前	
-----	--

2026年度 須磨学園夙川中学校 第2回入学試験 解答用紙 国語

※		※		※		※		※		※		※	
問九	問八		問七				問六	問五		問四	問三	問二	問一
	c	a											
		b											
			50	40		20							

一 (※の欄には、何も記入してはいけません)

※

	※		※		※		※		※		※		※
問九				問八	問七	問六	問五	問四			問三	問二	問一
7	5	3	1										a
	6	4	2										b
								30	20				

二 (※の欄には、何も記入してはいけません)

※

※

